ふじみ野市立大井中学校　学校だより

大井中だより

第１２号　　令和３年１２月１日　発行

http://www.fujimino.ed.jp/ojhs

学校教育目標

心豊かでたくましい生徒

たった一度しかない一生を生きる

校長　榎本一夫

師走、１２月になりました。今年もあと１ヶ月になりましたね。寒くなってきましたが、皆元気に登校できて嬉しく思っています。

１年生は、中学生になって初めての年末を迎えます。どんな冬休みにしようか、今から計画を立てましょう。そして、来年になるとまもなく、新入生を迎え、先輩になるということも忘れないでください。

２年生は、目前に迫った修学旅行を成功させましょう。今まで班行動の計画等、入念に準備をしてきました。大きな行事を終えて、一まわりも二まわりも成長できることを期待しています。

３年生は、いよいよ具体的な進路先を決定する時期がやってきます。将来何をやりたいのか、進学先でどんなことを勉強したいのかをよく考えて決めましょう。そして、今まで経験したことのない、受験生としての冬休みがやってきます。計画をしっかり立てましょう。

さて、コロナ禍の中、命の大切さについて再確認できたことと思います。世界にたった一つしかない私の命、他の人の命が一番大事なのは言うまでもありません。そんな中、先週とても痛ましい事件が起きました。１１月２４日朝、愛知県弥富市の中学校で３年生の生徒が、同じ学校の生徒に刺されて死亡するという事件です。本校は期末テストの１日目でしたので、皆さんが下校した後のニュースでこのことを知り、とてもショックを受けました。同時に、改めて命の大切さについて皆に考えてもらいたいと思ったのです。

そこで、少し古い小説ですが、山本有三という作家かが書いた「路傍の石」の一説を紹介します。

> たった一人しかいない自分を、たった一度しかない一生を、本当に生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。

主人公の愛川吾一少年は、友人とのかかわりの中での意地と、様々な心の葛藤の末、鉄道の鉄橋の枕木にぶら下がり、汽車を止めてしまいます。それを聞いた担任の先生は、そんな吾一少年に対して、「吾一」という名は「われ一人なり。われはこの世に一人しかいない。」という意味であると話します。そして、「たった一人しかいない者が、汽車のやってくる鉄橋にぶら下がるなんて、そんな無茶なことをするな。人生は生きることだ。自分自身を生かさなくてはいけない。」と言い、先ほどの一説を伝えて吾一を諭したのです。

この担任の先生の言葉には、次の二つの大きな意味が込められていると思います。

まず一つは、「われ一人なり」は、「吾一」という名前でなくても皆さん一人一人についても言えることだということです。この世の中に自分という存在は一人しかいないのです。つまり、人それぞれに、一度しかない人生を、一つしかない命を生きているのです。皆さんの一人一人が、そして皆さんの周りにいる一人一人が、一度きりの一生を、一つしかない命を生きている大切な存在なのです。他のものに変えることができない愛おしい存在なのです。命あるものの存在が、そういうかけがえのないもの、他にかわることができない「唯一無二」のものであるということを、しっかり胸に留めて、自分自身の存在を大切にできる、相手の存在を大切にできる、そして仲間の存在を大切にできる皆さんであってほしいと願っています。

もう一つは、「たった一度しかない一生を、本当に生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか」という言葉の意味です。「自分を生かす」とは、「人生を本当に生きる」という意味です。人生は一度きりです。そして、時の流れは戻すことができません。これは、誰にも同じに与えられたものです。だからこそ、自分自身の一生を精一杯生きること、自分の夢の実現に向けて一生懸命努力することに価値があるのです。そうすることによってはじめて「生まれてきたかいがあった」と言える人生とすることができるのでしょう。まだまだ若い将来の可能性を秘めた皆さんです。人生の目標を確かなものとして持つことで、「自分を生かす」一生にしてほしいと願っています。

あと一月で、新しい年、令和４年がやってきます。新しい年をよりよく生きていくために、今年をしっかり振り返り、より頼もしい自分や、仲間と共に新しい年を創っていけることを祈っています。

残り１８日間、頑張って学校生活を送りましょう。

保護者の皆様へ

子供の自立に心したいこと

間もなく受験シーズン、高校受験や大学受験に親が入試会場までついて行く姿が話題になります。子供の巣立ちの時に親がそっと後押ししてあげることは大切です。強く後押しをしてあげたほうがいい子もいます。しかし、子供が「いざ、我が人生勝負の時」に、保護者があまり近くに居られたら、自立への覚悟が鈍り、依頼心が強くなります。社会経験豊かな親だからこそ、子供の進路・受験校の選択やその他の岐路に立った時に助言することは大切です。しかし、最後の決断・決定や勝負の場にまで親がかかわるのは行き過ぎです。自立を阻害してしまうのです。

子供の意思にかかわらず、親が子供の人生のゴールを決めて、親の思うレールに乗せようとする事があります。歩む人生には障害や課題はつきものですが、親の決めた人生のレールを歩む途中障害や課題が生じた時に、子供は乗り越えようとする意欲よりも、「自分は親の言うとおりにしたのに、こんなはずじゃなかった。親が悪いんだ」と親への反発が起きる事があります。

親の責務は、子供を一人の社会人として自立させることです。親は子供の伴走を生涯続けることはできません。車を運転する方はおわかりでしょうが、道路状況に適した車間距離を保って走ったほうが、結果的に目的地に早く安全に到着します。子育ても同様に、親は子供の発達や成長に合わせて距離を保ちながらかかわっていくことが、子供の自立という目的地に早く到着するのではないでしょうか。そのためには日頃から、我が子の成長を「つかず離れず、目を離さず」かかわることです。私たち大人は、思春期に入った子供たちの自立へのチャレンジを、適度な距離を保ちながら助言していきたいものです。

埼玉県教育委員会副教育長学校訪問

１１月２９日（月）に埼玉県教育委員会副教育長が本校を訪問しました。

本市では昨年度から、いち早く児童・生徒一人１台のタブレット端末を導入し、今年度全員が活用できるようになりました。それを受け、本校は昨年度から、効果的な端末の利活用について研究を進め、現在ではほぼ全ての授業で使われています。また、家庭に持ち帰り、オンライン授業やｅライブラリでの自主学習にも取り組めるようになっています。その状況を視察するために、本校が埼玉県西部地区の代表校として選ばれ、来校しました。

当日は、数学科のデジタル教科書を活用している様子や英語科のタブレットを使った英作文練習、国語科のワードとチームズを使った作文の授業や、技術科のスカイメニューを活用した意見交換の授業を視察しました。

副教育長からは、「子供たちが、生き生きと積極的に授業に取り組む様子が見られ、様々な授業形態でタブレットＰＣが使えることがわかった。」というお褒めの言葉をいただきました。

これからも、子供たちのために有効活用について研究してまいります。

12月の行事予定

1（水）学校朝会（放送）
2（木）金曜時間割　３年生性教育　学校運営協議会
3（金）木曜①②⑤⑥③④時間割
　　１年生保護者会　２年生荷物発送
5（日）２学年修学旅行　１日目
6（月）２年生修学旅行　２日目
7（火）２年生修学旅行　３日目
8（水）２年生振替休業日　１年生学年朝会
9（木）①②⑤⑥③④時間割　３年生５時間授業
10（金）けやき学級保護者会（個人面談）
13（月）①②③⑤④時間割　３年生三者面談
14（火）ＴＦＣ　①②⑤⑥③④時間割　３年生三者面談
15（水）生徒朝会　③④⑤⑥①②　３年生三者面談
16（木）③④⑤⑥①②　３年生三者面談
17（金）３年生三者面談
20（月）生活アンケート
21（火）ふれあいデー
22（水）２年生学年朝会　給食最終日
23（木）短縮３時間授業
24（金）第２学期終業式
25（土）～１月１０日（祝）冬季休業日

１２月２９日（水）～１月３日（月）学校閉庁